

2014
10月
第51号

かい 海 陽 公民館報



海陽町教育委員会



9月28日
穴喰八幡神社秋祭り
関船・だんじり

公民館長就任 のご挨拶

公民館長

乃一 俊治



この度、海陽町公民館長に就任致しました乃一です。「ご互いさん」で「健康で長生き出来る海陽町」を目標に、地域の連帯を構築してあらゆる難題に、医療・行政・学校・地域公民館活動を共にやっていきましよう。

ご協力をお願いいたしまして私の挨拶に代えさせていただきます。

「人権力」ですみよい町に！

「正しさ」を考える

社会教育指導員 佐藤 和久

私たちは、毎日のようにテレビや新聞のニュースで、差別的なできごとや争いのことを目にします。また、身近なところでも、ささいなけんかやめごとなどにいくわすことが少なくありません。そこには、歪んだ正しさや利己的な正しさなど、様々な「正しさ」が隠れているようです。そこで、今回は「正しさ(正義)」について考えてみることにしました。

「正しさ」の基準

正しいかどうかを決める基準にはどのようなものがあるでしょう。ざっとあげると、「宗教的な基準」「道徳・倫理的な基準」「法的な基準」「哲学的な基準」「自然の摂理的な基準」などが考えられるでしょうか。そして、どの基準を使うかで正しさの中身も違ってきます。

正しさは変化する

連続テレビドラマ「花子とアン」の中で、憲兵をしていた花子

の兄、吉太郎が、戦争が終わり、「自分は正しいと思ってやってきた。でも、すべてが間違っていた」と述べるシーンがあります。吉太郎の正しさが変化した瞬間です。

歴史の流れを見てみると、このような正しさの変化をよく見つけることができます。つまり、自分が正しいと思っていることは、思いこみであり、間違っている可能性があるということです。法律も変化します。ハンセン病に関する法律を例にとれば、初期におけるハンセン病に関する法律は、人権を無視したような内容でした。最近になってやっと前向きな内容に変わってきたという経緯があります。法律といえども、正しさを決める尺度にならない場合もあるということです。

正しさ(正義)は人の数ほどあり、争いに発展する

子どもたちがけんかをし、な

ぜそうなったか理由を聞くと、必ず双方が言い分を持っている。どちらも自分の正義があるわけ。争いの規模が大きくなっても同じです。国と国が戦争をするとき、必ずそれぞれの国が正義を持っている。その正義を振りかざして戦います。アメリカがイラクに攻め込んだのは、アメリカが自国の正義を通してとしたからです。イラクも同じようにイラクの正義を持っています。国どうしの正義の対立が差別的極限である「戦争」を引き起こしたわけです。このように小さな争いから国どうしの争いまで、まさに正義と正義の戦いがあちこちで頻繁に起こります。戦争はいけないと言いつつ、正義のために戦争をしてしまうのは悲しい限りです。



様々な「正しさ」から見えてくるもの

様々な人権問題は、思いこみや間違った認識からくる「歪んだ正しさ」に起因していることが多いようです。

「自分は正しい」と多くの人が思います。でも、それは思いこみであり、誤解であるかもしれないということを、私たちは、どこかで認識していなければならぬでしょう。「正しさ」は不確実性を持つているからです。

では、この不確実な正しさの中で、相手と友好関係を築き、よりよい社会をつくっていくためにはどのようなすればよいのでしょうか。

私は、特に大事なものは、「物事の真実を知ること」「相手の立場を理解し、共に高めあうこと」ではないかと思っています。

世の中には、根も葉もないうわさやネット、マスコミから発せられる事実と異なる情報があふれています。また、間違いを論理で正しいと錯覚させる利己主義的な手法などもまかりとおっています。うわさや不確かな情報を鵜呑みにするのではなく、真実を知ろう

とする(時には科学的な見地から姿勢がどうしても不可欠です。

もう一つは、自分の正義を押しつけるのではなく、「相手の立場を理解し、共に高め合う」という共生的な考えを持つことだと思います。

人権問題をはじめ、多くの社会的問題がなかなか解決しないのは、それぞれが、自分の正しさを主張し、相手に押しつけることが主な原因だと考えます。

人間は、おおよそ押しつけられると反発するのが常です。相手と共に高まっていくためには、相手の苦しみを理解し、プライドを損ねることなく、相互の思いを伝えあうことが求められるのではないのでしょうか。

「正義って相手を倒すことじゃないんですよ。アンパンマンもバイキンマンを殺したりしないでしょ。だってバイキンマンにはバイキンマンなりの正義を持っているかも知れないから」と言っていたのはアンパンマンの作者やなせたかしさんです。正しさは、相手のことを思いやる場所があつて、はじめて成り立つものかも知れません。

青少年非行防止

パレード

10月1日(水)、穴喰小学校、穴喰中学校生、各種団体役員による青少年非行防止パレードが穴喰内で行われました。



穴喰中学生横断幕持ってパレード



穴喰小学生パレード

第9回 海陽町文化祭

テーマ『豊かな郷土文化の創造と発展』

サブテーマ「町民の文化交流をめざして」

1) 趣 旨

町民の文化活動の効果を発表し、文化活動に親しみ、楽しみ、また鑑賞することにより、広く町民の文化意識の高揚、文化交流を図ると共に、豊かな郷土文化の創造と発展につとめる。

2) 期 間 平成26年 **10月26日(日)～**
11月16日(日)

展 示

海南地区会場《阿波海南文化村》 10月30日(木)～11月3日(月)
海部地区会場《海部公民館》 11月1日(土)～11月3日(月)
穴喰地区会場《農業改善センター》 11月1日(土)～11月3日(月)

写真・書道・水墨画・絵画・短歌・川柳・俳句・手芸・押花・布絵・
木工・アートフラワー・フラワーデザイン・パッチワーク・彫刻・染色・
陶芸・絵手紙・押絵ほか 児童作品(小学生・中学生)作品等

芸 能(一般)

海南・海部地区《海南文化館ホール》10月26日(日) 午後1:00～
穴喰地区 《農業改善センター》11月16日(日) 午後1:00～

日舞・民謡・阿波踊り・ダンス・バレエ・詩吟・歌唱・合唱・バンド・
箏演奏ほか

芸 能(学生)

会場《海南文化館ホール》 11月8日(土) 午後1:00～

町内中学校・海部高校和太鼓・器楽部演奏等

3) 主 催 海陽町文化祭執行委員会・海陽町教育委員会

4) 共 催 海陽町文化協会

※ 詳細につきましては、決定次第お知らせいたします。
皆様の出品 ご参加お願いいたします。

平成26年度 海陽町文化財巡り

町内小学校2校の6年生を対象に、町内の文化財めぐりを2日間開催しました。

説明は、海陽町立博物館 郡司早直学芸員、岡澤祖一さん、徳島県南部総合県民局職員1名、南部防災館職員1名あわせて4名が行いました。8月6日(水)は海部小学校6年生7名、7日(木)海南小学校の6年生44名がそれぞれ文化財めぐりを行いました。参加した児童は、熱心に最後まで説明を聞いていました。



戦争体験の話



五反田にある板根の見学



防災の話



模型の大里古墳



海部刀の見学



浅川弥勒石仏の説明

9月6日(土)

第8回 ポップアスリートカップ 四国大会

会場：今治市 菊間緑の広場

全国大会へ

海南クラブ優勝!!



会場 横浜市 横浜スタジアム

日時 平成26年12月6日(土)～7日(日)

	海南クラブ	日高軟式野球クラブ(愛媛)	日章スカイブルー(香川)	結果
海南クラブ		2-1	3-0	2勝
日高軟式野球クラブ(愛媛)	1-2		4-1	1勝1敗
日章スカイブルー(香川)	0-3	1-4		2敗



第36回 四国ミニバスケットボール大会 海南ホーンズ健闘



■平成26年8月30日(土)

■場所：高松市総合体育館

【一回戦】

海南

36

10-6
3-16
9-9
14-12

43

桑原(愛媛)



川上公民館グラウンドゴルフ大会

9月7日(日) 於：若松グラウンドゴルフ場

優勝…岡崎君代さん
(若松)

準優勝…仲村トモヨさん
(相川)

グラウンドゴルフを通じて互いの交流と親睦を図ることを目的に、開催されました。暑さは多少和らいだものの参加者たちは良い成績を残そうと真剣に取り組み、グラウンドには笑い声とボールを打つ音が響いていました。

結果は、左のとおりです。

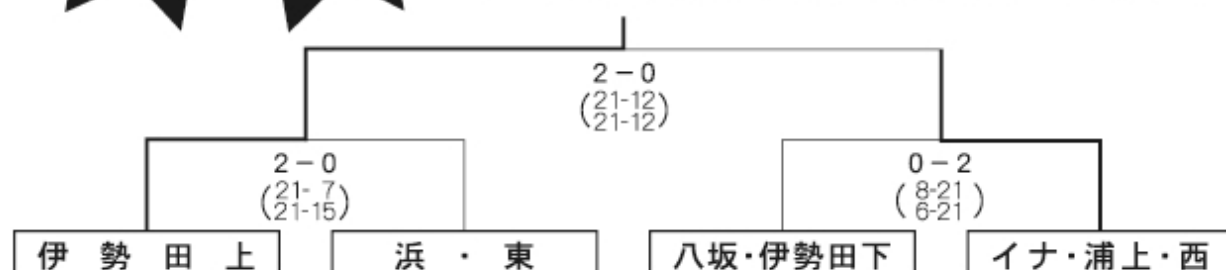
また、ホールインワン賞も10人の皆さんが獲得いたしました。



浅川公民館対抗ミックスバレーボール大会

9月11日(木) 於：浅川町民体育館

優勝…伊勢田上
準優勝…イナ・浦上・西



＜生涯学習の趣旨＞

生涯学習は、健康で豊かな生活を営み、仕事に役立つ知識や技術を身につけて、いきがいのある充実した人生を過ごせるように生涯を通じて行う学習活動のことです。

プチ睡蓮鉢を作ろう！



◆暑い夏に玄関に涼しい、プチ睡蓮鉢を製作しました。参加者の皆さんは思い思いの形をイメージした物を作り、目に涼しい作品ができました。

夏の体験講座
昨年引き続き親子で夏の体験講座が実施されました。

生涯学習講座



藍染めモビールを作ろう！



◆デンマークの室内装飾のモビールを作りました。今回は涼しさを出すために、あらかじめ藍染めで染めた木材を使用しました。パランスを取りながら製作したモビールが風に揺れて涼しげです。

ビーチグラスランプシェードを作ろう！



◆講師として美波町の、濱直大さんにご指導いただきビーチグラスランプシェードを製作しました。

ビーチグラスの色の組み合わせを考えながら、様々な作品を作られました。完成後にLEDライトを点灯すると幻想的で、参加者の皆さんは出来映えにご満悦の様子でした。



※ 親子での参加が原則ですがお孫さんとおじいちゃん 友人同士、2人一組であれば、いろいろなパターンで参加できるよう対応いたしますので、お気軽に相談下さい。

9月2日から28日まで、町立博物館において、企画展「長国の埋蔵文化財 弥生時代 IN 海陽」が開催されました。この企画

唯一朱を採掘した遺跡として知られる阿南市の若杉山遺跡(弥生時代終末期頃)で出土した石杵や石臼、土器をはじめ、他



菅原康夫氏講演会

展は、県南地域でこれまでに発掘調査などで出土した遺物を公開するために、4市町(海陽町・牟岐町・阿南市・小松島市)が合同で行ったイベントです。上記の期間、各会場それぞれ弥生時代・中世・古代・古墳時代をテーマとした展示が行われました。また毎週土曜日には、会場ごとに講演が開かれ、どの会場も多くの来場者が訪れ、県南地域の遺跡から出土したさまざまな遺物に関する選りすぐりの話題に、長時間にわたり熱心に聴講されていました。

にも銅鐸(複製品2点)の展示や、海陽町野江の芝遺跡で検出された鍛冶炉をもつ竪穴住居から出土した鉄製の鎌や、徳島市の下中筋遺跡(上八万町)で出土した四国最古のガラス製勾玉など、約70点の埋蔵文化財資料が公開されました。9月27日には海南文化館大会議室で、菅原康夫氏(公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター)による「長国の弥生時代」(90分)と、当館学芸員による「海陽の弥生時代」(60分)の二つの講演が展示に関連して行われました。

当日は、町立博物館ボランティアの方々の協力も得て、画期的なイベントの締めくくりとなり、多くの方々よ

企画展「長国の埋蔵文化財 弥生時代 IN 海陽」より

ながのくに

り、また今後もこうした企画を継続してほしいとのご意見を頂きました。



若杉山遺跡の展示

穴喰俳句

九月例会より

撤収のはじまってをり海の家
 極早生の青い蜜柑の甘さかな
 予定表通りいかない夏休
 追う子らの網にかかりし赤トンボ
 棚経や水害ゴミの谷間から
 刈草の匂いや上に横たわり
 柿たわわ主人なき庭木が傾ぐ
 秋の風ナースコールの鳴っている
 夕焼のはじまっている寺の鐘
 それぞれの想いをこめて慰霊踊
 蟬時雨朝の惰眠^{だみん}を許されず
 秋蟬の鳴くや日に日に遠くなり
 なにひとつ片付かぬま初盆
 日陰より日陰に移り買物に
 一通のはがきに秋のはじまりぬ
 洪水の流れゆくもの横向きに
 避難する避難袋に猫入れて
 集まってをり流燈の一つづつ

間戸谷恵子
 井花 一山
 新井 駿也
 樽井みつ子
 元木 栄子
 中岡 啓泰
 中島 時
 長岡 達江
 山本 球子
 梅田千恵子
 川野 佳代
 鍛冶田 晟
 新井 久実
 陸田ヨネ子
 元木 朱子
 寺崎 照代
 外山 千佳
 木下 野生

海南俳句

百才の母の出席終戦忌

添え書きの一句うれしき夏見舞
 遠花火残して逝った蛇の目傘
 開けはなす窓から窓へ秋の風
 ケネディのレインコート白広島忌
 雨足の合間合間に蟬の声
 片づけにため息いく度台風禍
 蝸の誘いも無視して野良仕事
 人住まず屋根に夏草背の丈
 振り返りくるつと日傘を廻す人
 熱闘の球児去りて夏行きぬ
 台風過トタン一枚だけのこり
 あぢさゐを吊す日のあり水曜日

廣瀬 克子
 谷口 洋根子
 津川 須美江
 叶岡 陽二
 橋本 幸子
 森口 豊子
 鍛冶崎 郁夫
 平道 はつ子
 富田 聞二
 山本 達平
 岳山 祐弘
 田中 たち子
 武知 陸子

海部短歌会

陸奥に先師の跡を訪へば海部の天地また新たなり

電話して孫がだんだん知恵づくを測りてうれし遠く住む我

背も足も大きくなりたる孫二人要なきブランコいまだ残れり

梅干せば祖母の偲ぶ庭中に梅の匂いと姉さん被り

日の丸が沢山挙がるアジア大会わが家も倣つて挙げる中日

吾のみの時間を得たるやすらぎに雨のひと日を短歌にあそぶ

精魂を込めて作りし米野菜水没しての収穫案ず

手を握り目を合わせれば語らずも温もり通う竹馬の友よ

田村航也

風呂谷幸子

溝内和恵

小笹仁子

池田孝司

北村千代子

西田美代

栢岡節子

海部ひまわり俳句

叱られて一人ぼっちの大銀河
波止で釣る少年の背に晩夏光内部より腐るならわし水蜜桃
潮の香のここまで匂う土用波

若住職棚経み声しんみりと

夜も更けて窓の下よりちちる啼く

水澄めり底まで沈む山の影

満月や鈴虫たちは大合唱

秋の色人の声する曲り角

冷し茶で一息ついて僧侶行く

津田一

西本公明

榊原礼子

南歌子

松田嘉子

元木美枝子

佐藤美代子

穴戸道子

岡育代

川野照美

網代川柳九月句会より

分相応田舎暮らしでゆっくりと

分別も銭の重みが袖を引き

明日あるを信じ自分の予定組む

阿波おどり夏を色どる笛太鼓

夏休み自由研究親の知恵

言い出すと後に引かない一本気

手を引いているのは孫の方らしい

境界線引けば冷たい風が吹く

立ちすくむ口の達者な婦人会

角の立つ話は酒で丸くする

さりげない好意が心開かせる

向き合って二人で笑う事もない

太田一洋

山本三久

高木柳月

福岡純山

椎崎日和

石垣小道

黒岩一平

風呂谷いずみ

池田善笑

北川弥生

井上可楽

中村あかり



トピック



町指定有形文化財（考古資料）

短 刀 岡田一郎氏蔵（海陽町立博物館寄託）

表銘 海部氏宗、裏銘 永正2年8月日。刃長 23.0 cm、
 反りなし。茎長 9.5 cm、目釘孔 1 個。形状は平造り、庵棟。
 鍛えは板目よく詰み、細かく地沸つく。刃文は湾れに浅
 い互の目交じり、金筋しきりにかかる。帽子は表湾れ込
 んで尖りごころの小丸。茎は生ぶ、先浅い刃上がり栗尻。
 鑢筋違いやや深い。海部古刀期の代表作で、一見相州伝
 とみられる作風である。